

**1~3月期の業況は2四半期続けて低下**

**【特別調査】 - 「中小企業におけるインターネット利用とキャッシュレスへの対応について」**

**【調査要領】**  
 調査時点：2019年3月上旬  
 調査対象：西兵庫信用金庫お取引先102社  
 調査方法：調査票を用いた面接による聞き取り調査  
 調査企業数：102社  
 調査票回収：102社  
 調査対象地域：西播磨地域（宍粟市、相生市、赤穂市、たつの市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡）

分析方法：D.I. (デフュージョン・インデックス) による分析  
 景気の方角感を判断するために使う指数。各質問項目で、「良い」と答えた割合から、「悪い」と答えた割合を引いて算出する。

回答企業の業種別内訳

業種	回答企業数
製造業	32
卸売業	11
小売業	17
サービス業	19
建設業	18
不動産業	5
総計	102

分析例

	良い	普通	悪い	合計
回答数	10	5	5	20

(良い)50% - (悪い)25% = (D.I.)25

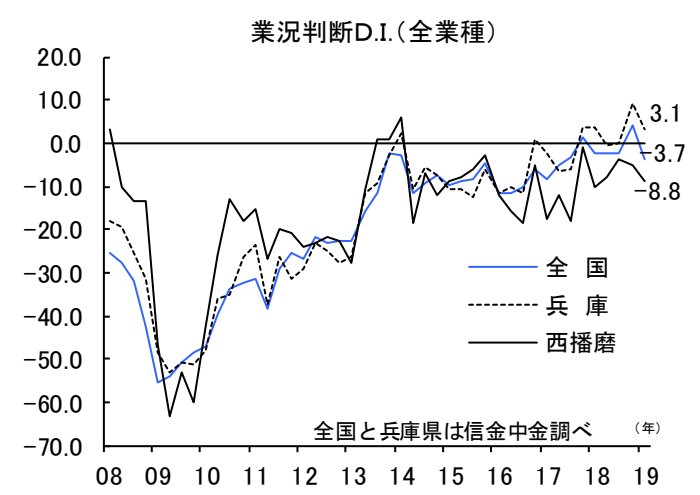
**全業種総合**

～景況感は低下～  
 19年1~3月期（今期）の業況判断D.I.は△8.8と、前期比3.8ポイント低下した。前期に比べ業況が「良い」と回答した企業の割合が6.1ポイント低下した一方、「悪い」と回答した企業の割合が2.2ポイント低下したことによる。

前期に比べ売上額の減少により収益が低下したことが主な要因である。

前年同期比の売上額判断D.I.は△1.0と前期比6.0ポイント低下し、同収益判断D.I.は△8.8と前期比1.9ポイント低下した。

業種別の業況判断D.I.は、卸売業・小売業・不動産業で改善し、製造業・サービス業で低下した。建設業は横ばいであった。

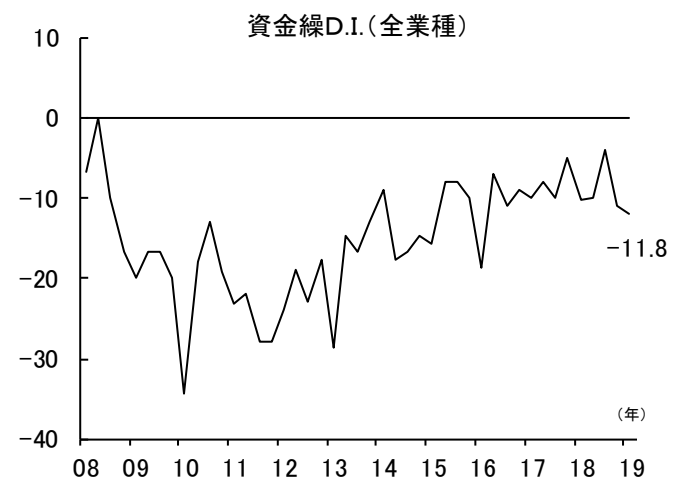


【業種別天気図】 過去4四半期の業況判断D.I.を平均して判定

時期	2018年10~12月	2019年1~3月	2019年4~6月(見通し)
総合	晴	晴	晴
製造業	晴	晴	晴
卸売業	晴	晴	晴
小売業	晴	晴	晴
サービス業	晴	晴	晴
建設業	晴	晴	晴
不動産業	晴	晴	晴

天気アイコン：快晴、晴れ、晴れ時々曇、うす曇、曇、雨、大雨

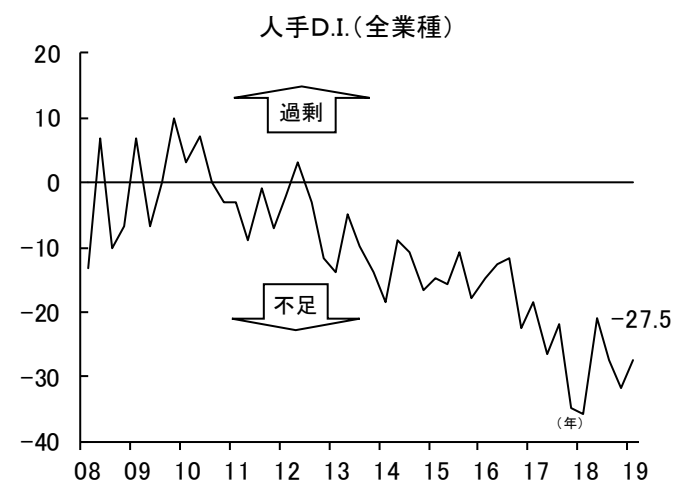
好調 ← → 低調



～販売価格判断D.I.は改善・仕入価格判断D.I.は低下～  
 販売価格判断D.I.は5.9と、前期比1.9ポイント改善した。仕入価格判断D.I.は、27.5と前期比0.2ポイント低下した。

～資金繰判断D.I.は低下～  
 資金繰判断D.I.は△11.8と、前期比0.9ポイント低下した。

業種別では、小売業が前期比11.8ポイント、建設業が同11.1ポイント改善した。一方、製造業が同9.8ポイント、卸売業が同9.1ポイント、不動産業が同20.0ポイント低下した。サービス業は横ばいであった。

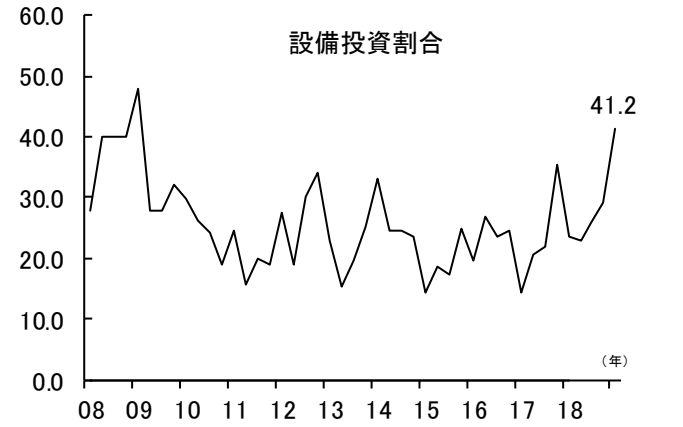


～人手過不足判断D.I.(過剰-不足)は、人手「不足」感が弱まった～

雇用面では、人手過不足判断D.I.が△27.5（マイナスは人手「不足」超）と、マイナス幅が前期比4.2ポイント縮小し、人手不足感がやや弱まった。

残業時間判断D.I.は△8.8と、前期比13.8ポイント低下した。残業時間が「減少」したとする企業の割合が増加し、「増加」したとする企業の割合が減少したことによる。

～設備投資実施企業割合は増加～  
 設備投資実施企業割合（不動産業を除く企業のうち設備投資を実施した企業の割合）は41.2%と、前期比12.0ポイント増加した。



～来期の景況感は今期実績比横ばいの見通し～  
 来期の予想業況判断D.I.は△8.8と、今期実績比横ばいの見通しとなっている。

業種別の予想業況判断D.I.は、製造業が今期実績比6.3ポイント、小売業が同11.8ポイント、不動産業が同40.0ポイントそれぞれ改善する見通しである。一方、卸売業が同9.1ポイント、サービス業が同15.8ポイント、建設業が同11.2ポイントそれぞれ低下する見通しである。

**<経営上の問題点>**

経営上の問題点としては、「人手不足」が35%、「売上の停滞・減少」、「利幅の縮小」が32%と多く、その他では「同業者間の競争の激化」が25%、「原材料高」が19%となっている。

**<当面の重点経営施策>**

当面の重点経営施策としては、「経費を節減する」が58%、「人材を確保する」が40%、「販路を広げる」が36%と多く、その他では「情報力を強化する」が12%、「教育訓練を強化する」、「宣伝・広告を強化する」が11%となっている。

経営上の問題点

順位	全業種	割合
1位	人手不足	35%
2位	売上の停滞・減少	32%
2位	利幅の縮小	32%
4位	同業者間の競争の激化	25%
5位	原材料高	19%

当面の重点経営施策

順位	全業種	割合
1位	経費を節減する	58%
2位	人材を確保する	40%
3位	販路を広げる	36%
4位	情報力を強化する	12%
5位	教育訓練を強化する	11%
5位	宣伝・広告を強化する	11%

※2009年12月期までは、信金中金が「全国中小企業景気動向調査」として実施している当金庫調査対象30先のデータであり、2010年1月以降は、新たに調査対象先を追加し西播磨地域に限定したデータとなっている。

## 製造業

業況判断D.I.(製造業)



### ～製造業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は 0.0 と、前期比 22.6 ポイント低下した。

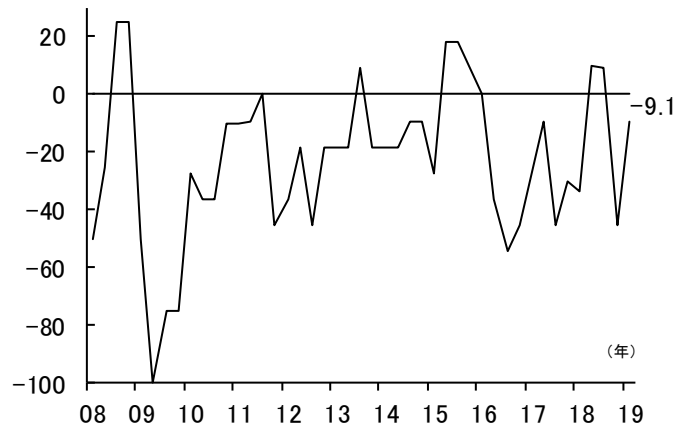
前年同期比売上額判断 D.I.は 15.6 と、前期比 10.2 ポイント低下し、同収益判断 D.I.は 9.4 と、前期比 3.5 ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は 34.4%と、前期に比べて 4.3 ポイント低下した。資金繰り判断 D.I.は 6.3 と、前期比 9.8 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 21.9$  (前期は $\Delta 41.9$ ) と、人手不足感は弱まった。

来期の予想業況判断 D.I.は 6.3 と、今期実績比 6.3 ポイントの上昇を見込んでいる。

## 卸売業

業況判断D.I.(卸売業)



### ～卸売業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 9.1$  と、前期比 36.4 ポイントの改善となった。

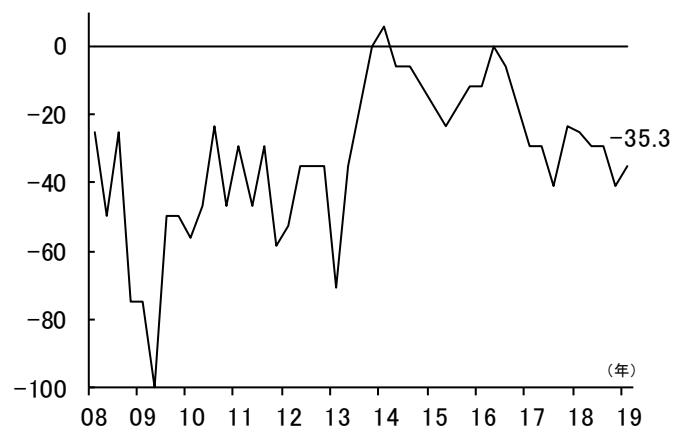
前年同期比売上額判断 D.I.は 0.0 と、前期比 27.3 ポイントの改善となり、同収益判断 D.I.は $\Delta 18.2$  と、前期比 18.2 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 18.2$  と、前期比 9.1 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 18.2$  (前期も $\Delta 18.2$ ) と、人手不足感は横ばいとなった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 18.2$  と、今期実績比 9.1 ポイントの低下を見込んでいる。

## 小売業

業況判断D.I.(小売業)



### ～小売業の景況感は改善する～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 35.3$  と、前期比 5.9 ポイント改善した。

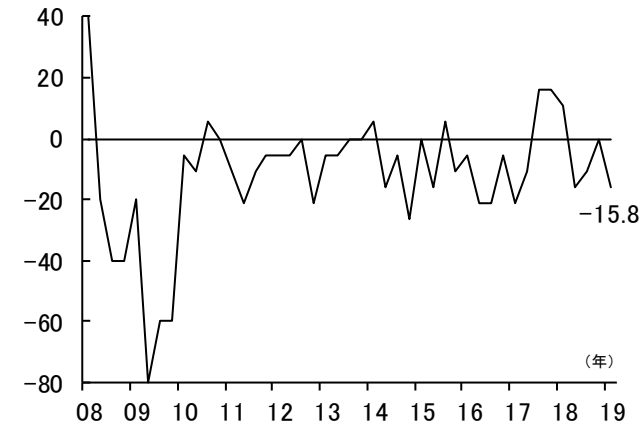
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 23.5$  と、前期比横ばいとなった。同収益判断 D.I.は $\Delta 29.4$  と、前期比 5.9 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 23.5$  と、前期比 11.8 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 23.5$  (前期は $\Delta 17.6$ ) と、人手不足感は強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 23.5$  と、今期実績比 11.8 ポイントの改善を見込んでいる。

## サービス業

業況判断D.I.(サービス業)



### ～サービス業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 15.8$  と、前期比 15.8 ポイント低下した。

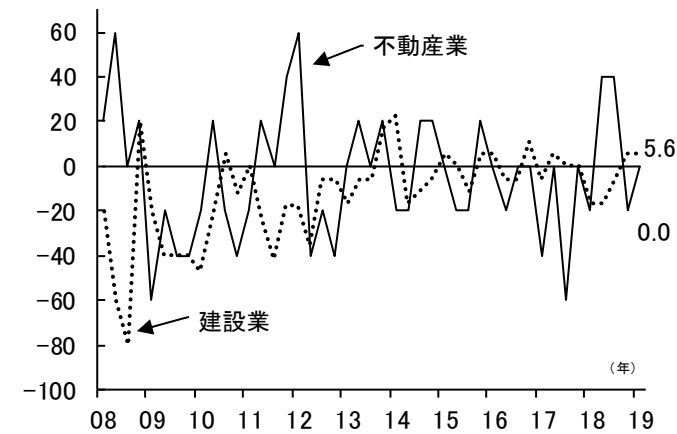
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 5.3$  と、前期比 5.3 ポイント低下し、同収益判断 D.I.は $\Delta 15.8$  と、前期比 5.3 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 26.3$  と、前期比横ばいとなった。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 31.6$  (前期は $\Delta 26.3$ ) と、人手不足感は強まった。残業時間判断 D.I.は $\Delta 15.8$  と、前期比 36.9 ポイント低下した。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 31.6$  と、今期実績比 15.8 ポイントの低下を見込んでいる。

## 建設業、不動産業

業況判断D.I.(建設・不動産業)



### ～建設業の景況感は横ばい～

今期の建設業の業況判断 D.I.は 5.6 と横ばいとなった。前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 5.6$  と、前期比 22.3 ポイント低下した。同収益判断 D.I.は $\Delta 11.1$  と、前期比 11.1 ポイント低下した。受注残判断 D.I.は $\Delta 16.7$  と、前期比 44.5 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 11.1$  と、前期比 11.1 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 38.9$  (前期も $\Delta 38.9$ ) と、人手不足感は横ばいとなった。来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 5.6$  と、今期実績比 11.2 ポイントの低下を見込んでいる。

### ～不動産業の景況感は改善～

不動産業については、調査対象先の少なさを考慮する必要があるが、今期の業況判断 D.I.は 0.0 と、前期比 20.0 ポイント改善した。前年同期比売上額判断 D.I.および同収益判断 D.I.ともに 0.0 と、それぞれ前期比 20.0 ポイント低下した。資金繰り判断 D.I.は $\Delta 20.0$  と、前期比 20.0 ポイント低下した。在庫過不足判断 D.I.は $\Delta 20.0$  と、前期比横ばいとなった。来期の予想業況判断 D.I.は 40.0 と、今期実績比 40.0 ポイントの改善を見込んでいる。

## 調査員のコメント

**製造業**：取引先からの受注が将来に向けて安定し続けるか不安があるので設備投資に対して慎重になっている。

**卸売業**：仕入の値上がりが想定されることから収益性確保に向けて課題がある。

**小売業**：既存顧客に頼った営業であるが、人口減少が続き若年層の流出が止まらない状況である。営業を続けることができるか懸念がある。

**サービス業**：キャッシュレス決済の導入を今後進めていきたい。詳しい人材がないので、手探りの導入になる。

**建設業**：地元業界での人材不足は進んでいる。外注に依存しているが、自社で人員をかかえるには受注が不安定である。